ふるさと稲作ほっとLINE　No.2

令和４年３月28日

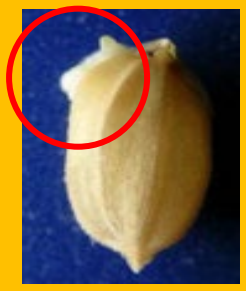
最初が肝心！催芽編

【ポイント①】浸種から催芽に移る前にひと工夫！
浸種終了後、すぐに催芽するのではなく36℃～40℃のお湯で湯通ししましょう。種籾袋内の温度が均一になり、発芽ムラを軽減します。

【ポイント②】出芽ムラを無くすため催芽温度に注意！
催芽器で催芽する際は必ず30℃～32℃で行いましょう。

【ポイント③】催芽時間は種籾の状態を見て！
催芽する時間は、24時間が目安です。しかし、「24時間たったから終了」は辞めましょう。種籾がハト胸状態になっているのを確認し終了しましょう。芽の伸ばしすぎは、播種の際絡まり切れてしまうので注意しましょう。また、品種によって催芽が完了する時間は違います。どの品種においてもハト胸状になっていることを確認して催芽を終了して下さい。

【ポイント④】催芽終了後…
催芽終了後は、シート等へ平らに広げ、陰干しし種子に熱が籠らないようにしましょう。播種しやすい状態にしておきます。



このくらいが理想！伸ばしすぎると播種時

芽が引っかかり切れてしまう！